

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077700120
法人名	有限会社トコトコ
事業所名	グループホームけやき
所在地	福岡県三井郡大刀洗町山隈23 (電話) 0942-77-4801

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 11月 19日
評価確定日	H22年 1月 15日

【情報提供票より】 (平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 8月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	15 人
職員数	18 人
常勤	10人
非常勤	8人
常勤換算	6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	400 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (100,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年10月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	82 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院、本田脳神経外科、宮田クリニック、ハートスマイル歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かで静かな環境に建てられた平屋建ての事業所である。周囲の住宅と違和感がないように配慮された外観で、花のプランターや果樹で彩られた温かみのある雰囲気、内部も木の温もりを活かした設計となっている。全職員は、利用者主体のサービス提供や地域交流を重視した支援を心がけ、日々実践に努めている。笑顔が絶えない事業所を目指し、職員が個別の利用者の能力を活かすケアを行い、精神症状が改善された事例もある。地元の食材や事業所で育てた野菜や果物を日常の食生活に取り入れている等、利用者がより食事を楽しめるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、改善計画シートを作成し改善計画を立て、一部取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、管理者が集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。意見や要望は日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	職員は家族来訪時に積極的に家族等の意見、不満、苦情を聴取し、外出の機会を多くする等して、意見を運営に反映させている。事業所以外の第三者相談窓口については、入居時や折に触れて家族へ説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りへの参加や事業所の餅つき大会に地域住民の参加がある。近隣の保育園の敬老会に参加し、地区の青年団の訪問がある等、地域の人々と交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表者が開設時に作った理念であるが、地域密着型の視点がない。	○	現在の理念をもとに地域密着型の視点を盛り込むことの是非について、職員を含む全員で話し合ってもらいたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の揭示を行い確認できるようにしているが、理念について話し合う機会はなく、意識的に取り組む対応はなされていない。	○	理念の実践に向けて全職員で共有し、日々取り組んでほしい。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りへの参加や事業所の餅つき大会に地域住民の参加がある。近隣の保育園の敬老会に参加し、地区の青年団の訪問がある等、地域の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、管理者が集約している。前回評価での改善課題について、改善計画シートを作成し改善計画を立て取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行っている。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。意見や要望は日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連携を密に取り、サービスに関する課題の話し合いや情報交換を行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関して、一部職員は制度についての研修を受講している。利用者・家族等へは、入居時や来訪時に説明している。	○	全職員の制度に関する内部または外部研修の機会を設けてほしい。また、伝達研修を行い、共有化できる仕組みを作ってほしい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時に、利用者の暮らしぶりや行事の様子等を知らせている。緊急時等は電話で対応している。利用者ごとにアルバムを作成し、退居時に手渡す等の取り組みがある。金銭管理については、月1回、金銭出納帳と領収書の原本と家族に明示し、その都度確認の署名をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族来訪時に積極的に家族等の意見、不満、苦情を聴取し、外出の機会を多くする等して、意見を運営に反映させている。事業所以外の第三者相談窓口については、入居時や折に触れて家族へ説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるように努めている。日常的にユニット間で交流し、職員が代わる際は引き継ぎの期間を十分に設ける等、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等に関係なく、適性を重視している。ユニット間で能力や経験年数のバランスを取るよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する研修は一部職員が参加している。パンフレットがある。</p>	○	<p>全職員の内部または外部研修への参加の機会を設けて、人権教育を実施してほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、管理者や職員がスキルアップしていくための外部研修や育成計画を立てるまでに至っていない。</p>	○	<p>積極的に外部研修へ参加する機会を確保し、全職員で共有化できるように内部研修を徹底する等の取り組みを早急にしてほしい。</p>
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者ネットワークに加入している。管理者や職員は、他の事業所と意見交換や事例検討等を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、見学や自宅訪問等を行っている。サービス開始時は利用者の意向やペースを尊重し、集中的に見守りや観察を行っている。また、時間をかけて話を聴く等コミュニケーションを重視して、徐々に事業所に馴染めるような工夫をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や畑仕事等を共に行い、暮らしの知恵など職員が知らない知識を利用者から教えてもらう場面がある。利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向を、利用者の言動や表情等から把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族から聴き取った生活歴等を参考に等し、本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の思いや意向及び職員の意見や気付きを取り入れて作成している。家族へ説明し、同意の署名・押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は気付きや意見を計画作成担当者と話し合い、6ヶ月に1回また利用者の状態の変化や状況に応じて、介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、利用者を見舞いながら本人・家族・医療機関と連携を図りながら、早期退院に向けて取り組んでいる。通院や送迎等については、本人や家族の状況に応じて柔軟に支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に、かかりつけ医への受診や看護師の付き添い等、本人・家族の希望や状況について話し合っている。それぞれの希望を大切にしながら、適切な医療を受けられるよう柔軟に支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、利用開始時に家族等へ口頭で、医療機関に委ねることを説明している。	○	重度化や終末期の方針については明文化し、家族・本人の意向を確認しながらその都度話し合い、医療関係者、職員の全員で方針を共有してほしい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉かけや対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては、施設長・管理者が日々点検し、職員の意識向上に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調・気分に配慮し、利用者の希望にそって買い物や散歩等、柔軟に支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に食事の準備や片付けをしている。食事は同一テーブルで利用者と同じ物を食べ、時には利用者が育てた野菜や事業所敷地に実った果物が食卓に供される等、楽しみのある食事を支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望等にあわせて柔軟に対応し、入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否の人に対しては、声かけやタイミングを計り、入浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握し、畑の野菜作り・花の植栽・料理の下ごしらえ・草取り等、楽しみごとも含めて利用者一人ひとりに支援している。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望または天候等に配慮し、散歩、買い物、季節の花見、ドライブ、外食等、戸外に出かけられるよう支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、センサーに頼らず、見守りや付き添いを行っている。また、近隣へ見守りや声かけの協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、事業所独自で避難訓練を実施し、地域住民へ参加協力を呼びかけている。非常用食料・飲料水・備品等は、別棟の会議室に準備している。	○	今後は非常時に備え、事業所だけの訓練ではなく、消防署の協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常用食料等は事業所内に準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量の記録は全利用者分あり、水分摂取量の記録は一部利用者分がある。献立は利用者の嗜好に配慮して職員が作成し、年1回、法人職員の管理栄養士から専門的なアドバイスとチェックを受けている。</p>	○	<p>水分摂取量について大まかに把握しているが、全利用者分を記録し、利用者の健康管理に努めてほしい。</p>
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関や共用空間には、花や季節を感じる小物を飾り、ソファや畳の空間を設置する等、家庭的雰囲気配慮している。利用者が不快と感じる音や光はなく、食堂・リビングの窓からはみかんの木の緑が見え、和みの空間となっている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の馴染みの家具や小物等を持ち込み、季節の花や家族の写真が飾られている。仏壇や趣味の作品を持ち込み、その人らしい個性を尊重し、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※  は、重点項目。